

## JP004 クッチャロ湖 (くっचारこ)

北海道：浜頓別町

位置	N 45° 08′ E 142° 18′
面積	2,803ha

### 環境構成【湖沼、湿原】

クッチャロ湖は北海道北部のオホーツク海に面した海跡湖である。周囲 27km、平均水深 1.5m で、大沼（長径 5.5km）と小沼（長径 3.0km）の 2 つによって形成されている。標高が低く約 3 km 離れたオホーツク海の海水が満潮時に川を逆流して流入している。周辺はスゲやミズゴケ、ヨシなどの湿原帯に覆われ、8 本の流入河川がある。春と秋に数千羽のコハクチョウや数万羽のカモ類が飛来する。



写真：浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館

### 選定理由

A4i	コハクチョウ
A4iii	コハクチョウ

### 保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（浜頓別クッチャロ湖）、都道府県立自然公園（北オホーツク道立自然公園）、自然環境保全地域、保護林

<その他>

ラムサール条約登録湿地、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ参加地

### 保全への脅威

- ・農地改良等による堆積物の流入
- ・海水の流入による植生等の変化
- ・流水域での営農等により、湖へ有機物が流入し、富栄養化が見られる。
- ・昭和初期に天然林の伐採が行われていた。
- ・平成元年頃までは、湖は冬になると完全に結氷していたが、温暖化により、少しずつ

つ冬に湖が結氷しない面積が広がっている。また、近年、大雨や強風によって、一時的に湖が増水し、流木などの大量の漂着物が流入する事が増えている。

- ・湖周辺をはじめ、宗谷管内全域で複数の風力発電の建設計画が進んでいる。
- ・アライグマ・セイヨウオオマルハナバチの生息が確認されている。アライグマは定期的な駆除を行っているが、個体数の減少には至っていない。マルハナバチについては、駆除は進んでいない。

## 鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化：  
変わらない
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査の有無：有  
＜調査データの入手方法＞  
環境省 HP・渡り鳥飛来状況より  
[http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird\\_flu/migratory/ap\\_wr\\_transit/index.html](http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/migratory/ap_wr_transit/index.html)
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：  
変化はない
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：普通（70～90%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：有

## **保全活動**

- ・ 環境管理：実施者（環境省・浜頓別町）  
内容：定期的な水鳥の飛来状況の把握。情報の提供。国指定鳥獣保護区保全事業の実施。植樹活動等。水質調査の実施。
- ・ 外来種のコントロール：実施者（浜頓別町）  
内容：アライグマの駆除。周辺地域を含めて、町内で年間約20頭程度の駆除を実施している。
- ・ 環境教育活動：  
内容：教育機関と連携した自然観察会等の設置。地域の小中学校、高校と自然観察会や環境についての学習会を実施（浜頓別町）  
清掃活動の管理、環境教育（浜頓別町）  
各季節の観察会、（浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館）
- ・ 保全のための人材育成活動：実施者（浜頓別町）  
内容：ジュニア活動の実施。他のラムサール条約サイトの子どもの交流会なども実施。
- ・ 法律制定、政策、規制：実施者（北海道）  
内容：「クッチャロ湖湿原保全プラン」を策定。

- ・モニタリング調査：実施者（浜頓別町）  
内容：ガンカモ類飛来シーズンに月3回の調査を実施。定期的な水質調査の実施。
- ・経済活動を通じた保全（エコツーリズム等）：実施者（NPO 団体）  
内容：NPO クッチャロ湖・エコワーカーズが、カヌー等のエコツアーを実施。
- ・その他  
標識調査（浜頓別町）  
植樹、炭素繊維による水質浄化（クッチャロ湖保全対策協議会）

## IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・クッチャロ湖等保全対策協議会、NPO クッチャロ湖・エコワーカーズ

## 見られる鳥

浜頓別町では湖周辺を含めて約 290 種類の野鳥が確認されている。特に春と秋の渡りの季節になると日本とロシアを移動する野鳥が多く飛来し、国内有数のコハクチョウの中継地となっている。ピーク時にはコハクチョウが数千羽とヒドリガモやスズガモ等が数万羽飛来する。また、夏には、湿原でコヨシキリ、シマセンニュウ、オオジュリン、ツメナガセキレイ等が繁殖し、オジロワシ、タンチョウの繁殖も確認されている。

留鳥	マガモ、クマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ゴジュウカラ、ハシブトガラ、エナガ、キクイタダキ、シメ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、オジロワシ
夏鳥	ウミウ、サンカノゴイ、アオサギ、ヨシガモ、オオジシギ、ツツドリ、カワセミ、ノゴマ、ノビタキ、ウグイス、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、コヨシキリ、ツメナガセキレイ、アカハラ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、コムクドリ、タンチョウ
冬鳥	コハクチョウ、オナガガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、カワアイサ、オオワシ、シロハヤブサ、シロカモメ
旅鳥	マガン、ヒドリガモ、トモエガモ、ハシビロガモ、スズガモ、キアシシギ、ツグミ、マミチャジナイ、カシラダカ、アトリ、キレンジャク、ヒレンジャク
迷鳥	ヘラサギ、ソデグロヅル、コクマルガラス

## 関連団体・自治体・施設等

- ・浜頓別町
- ・浜頓別クッチャロ湖水鳥観察館



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community